



たんぽぽ 2012/10 物忘れ？認知症？

匂いを感じにくくなっていませんか？認知症を発症するかなり前から嗅覚が減弱するということを知っていますか？嗅覚異常は、訴えないと病院でも嗅覚テストを行わないため気づくのが遅れがちです。フライパンが焦がれていても失禁していてもその臭いに気がつきません。立った時、隣に座っていた人に「濡れていますよ」と言われても「失礼な！」と怒りだします。匂いを感じる中枢を嗅球といいます。脳の前頭葉と呼ばれる場所は人が社会性を保つために重要な人格や意志、記憶、感情、寛容性、創造性などをコントロールします。この前頭葉の下に嗅球と呼ばれる中枢があり嗅細胞を鼻粘膜に伸ばしています。交通事故などで頭を打ったりすると嗅覚脱失することがあり、頭蓋内でも損傷を受けやすいデリケートな部位です。認知症の発病は前頭葉や海馬萎縮に先行して嗅球から始まるということがわかってきました。認知症はアルツハイマー型認知症(着しい物忘れ、もの盗られ妄想など)、脳血管性認知症(脳梗塞の後遺症)、レビー小体病(幻視、転倒、意識喪失、パーキンソン歩行など)前頭側頭型認知症(同じ行動を繰り返す、無意識の万引きなど)の4つに分類されています。認知障害は慢性硬膜下血腫、正常脳圧水頭症、肝性脳症、甲状腺機能低下でもみられ睡眠薬などの薬剤誘因を加えるとその診断は難しい。線引きが出来ない部分もあり、それぞれ治療法も違うので厄介な。物忘れが顕在化するまで発病してからどのくらい時間が経過しているのかわからないことも多く『抑うつ』や『睡眠障害』『せん妄』『幻覚』などを伴うため、適切な治療法を選択するためには多少時間がかかりました。認知症の診断にはCTやMRI、MRAなどを駆使した画像診断が欠かせません。早期アルツハイマー病の診断に役立つMRI解析システムVSRAD、超早期脳梗塞の診断に役立つMRI拡散強調画像SPECTというシンチグラフィ検査は認知症の原因診断を可能にします。『脳血流シンチ』はアルツハイマー病、レビー小体病、前頭側頭型認知症でそれぞれ特徴ある画像を示してくれ、多発性萎縮、進行性核上麻痺などの特殊な病気の診断も可能です。心臓の検査『心筋シンチ』を用いて症状からだけでは分からないパーキンソン病と薬剤性や脳血管性パーキンソン症候

鑑別し、また一般的ではありませんが『アミロイドPET』はアルツハイマー病の発症前診断を可能にするので、(しかしこれらの画像診断法はいつでもどこでも、というわけにはいきません。特に認知症の治療で重要なことは早期診断、早期治療です。物忘れが年齢によるものか認知症の始まりなのかは分かりにくい。そこで物忘れだけでなく次の症状に注意を払ってください。①匂い:これは初めに書きました。②味覚:最近味付けが濃くなってきた人は注意が必要。甘いもの塩辛いものを好むのは食材の美味しさを感じにくくなってきた証拠。長年大量の砂糖を消費する人は認知症になると言いきてもいいので、(そう。③幻視:『産敷わらし』は有名です。死んだ人が会いに来たとか怖い夢を見た、虫などの小動物が見える、花の絵をみて人の顔と誤認する。これは視覚中枢の障害が推測されます。視空間認識を調べる簡単な方法として『時計』と『立方体』が描ければ問題ないで、(そう。書く文字がだんだん小さくなっていないか、だまし絵から間違い探しが出来るか？幻聴は『統合失調症』に特異的。④感情障害:顔面の表情が乏しく笑顔が少なくなる。抑うつ症状と似ていますが、『うつ病』の場合はアルツハイマー病でみられる『取り繕い』がないのが特徴。⑤睡眠障害:レビー小体病のREM睡眠障害とレストレスレッグ睡眠異常など。認知症全般に睡眠障害は必発。認知症のある病期にみられる夜間せん妄、夜間徘徊に注意。お年寄りがぐっすり眠っているなら安心していいです。日本人の65歳以上が3000万人を超え、3人に1人が高齢者という日本です。認知症対策には早期発見・早期治療といたしましたが、糖尿病、高血圧、高脂血症、喫煙対策が認知症予防に一番有効です。悪い生活習慣の終着駅が認知症。日頃から食事内容に注意し運動を心がけ禁煙する。肥満や高血糖にならないよう食べ過ぎを戒め、健康的な介護負担、医療負担の少ない高齢化社会を目指しましょう。



尿検査でわかること



当院では、患者さんの病状に応じて随時、試験紙法による院内迅速尿検査を行っております。さて、この検査はいったいどんなことを調べ、どんなことが分かるのでしょうか。

潜血 尿の中に出血があるかどうか、又、腎臓から赤血球がもれしていないかを調べます。

陽性の場合には主に尿管・膀胱・尿道の異常(感染症・結石など)や自己免疫疾患であるIgA腎症などの腎臓病が疑われます。

又、泌尿器系の癌の危険性もあり、精密検査が必要です。

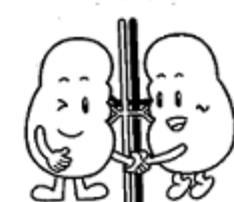
糖 尿に含まれるブドウ糖を調べます。血液中には常に一定のブドウ糖(血糖)が含まれていますが、血液中のブドウ糖が多くなりすぎると糖が尿の中にもれ出てきます。この検査は主に糖尿病のスクリーニング(ふるいわけ)検査として利用されます。

pH(ペーハー) 尿の酸性、アルカリ性を調べます。通常6前後の弱酸性ですが、食事や運動などの影響で健康な人でも4.5~8の間で変化します。酸性では糖尿病や痛風・アシドーシスなどが疑われますが発熱や下痢の症状がある場合も酸性となります。アルカリ性の場合には主に尿路感染症などが疑われます。

蛋白 血液中に含まれる蛋白が腎臓で再吸収されずに尿に混じって体外に排出されている場合を「蛋白尿」といいます。蛋白尿が認められたら腎臓病が疑われるので再検査や精密検査をおすすめします。

ウロビリノーゲン 肝臓でつくられるビリルビンという色素が腸に排出され、細菌によって分解された物質をウロビリノーゲンといい、尿中の量測をすることで肝機能や胆道系の異常を発見することができます。健康な人でもわずかに出ているためこの検査は弱陽性(+)又は疑陽性(±)は正常、陰性や強陽性は異常と考えられます。

結果の表示



尿判定量		
ウロビ		⇒ 正(正常)
潜血		(-) (±) (+) (2+) (3+) ... 陰性 疑陽性・陽性の程度により増加
蛋白		
糖		
pH		⇒ 4, 5, 6, 7, 8, 9 酸性 ← 中性 → アルカリ性

※上記の他にも症状により、ケトン体(高血糖・重症アシドーシスの場合)や細菌、白血球を調べます。尿検査は料金も安く簡易な検査ですが、身体の異常を知らせる大切なサインを見つけることができます。勧められたら是非協力して下さい。迅速結果はその日のうちに文書でお伝えいたします。

禁煙外来より

当院で過去1年間に新たに20名の方が禁煙治療に挑戦され、ほとんどの方が見事に「卒業」されました。禁煙はあなた自身のためだけでなく、周りのすべての人に対する思いやり! 思い切って第1歩を踏み出してみませんか?

治療期間は約3ヶ月、時間のない方は予約診療も受け付けています。詳細は当院ホームページでもご覧いただけます。



テレホンサービス

☎ 通話料無料 0120-979-451
(携帯電話からはご利用いただけません)
《10月のテーマ》

- 月曜日 使い捨てコンタクトレンズの注意
- 火曜日 介護保険改定後の問題点
- 水曜日 積極的に受けよう
インフルエンザワクチン
- 木曜日 内視鏡による消化器手術
- 金曜日 妊娠と飲み薬の影響

《11月のテーマ》

- 月曜日 冬に流行る乳幼児の嘔吐下痢症
- 火曜日 歯科インプラントについて
- 水曜日 タバコのない健康な社会へ
- 木曜日 外反母趾と靴
- 金曜日 大人のアトピー性皮膚炎

祝祭日は前日の放送が流れます
<http://www.hhk.jp/>
(過去の放送分も掲載しております)

編集後記

9月で開院27周年を迎えました。これからも地域の皆様の大切な命を守る者として心の信頼して頂ける医療を目標に頑張っております。お気づきの点がありましたら、遠慮なく聞かせて下さいね。次回1月、新年号の予定です。

